

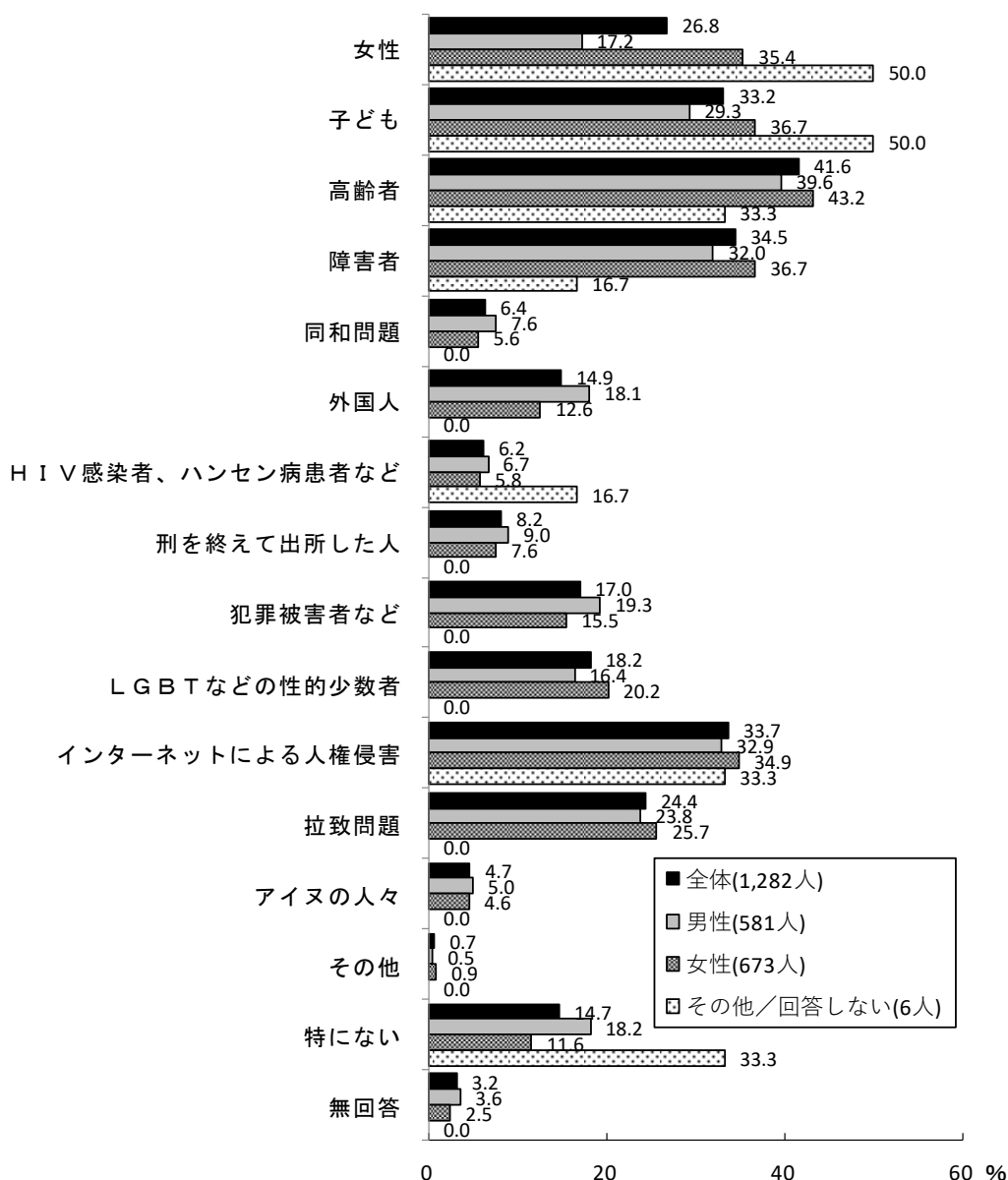
7 人権・男女平等について

7-1 人権の意識について

◆「高齢者」41.6%、「障害者」34.5%、「インターネットによる人権侵害」33.7%◆

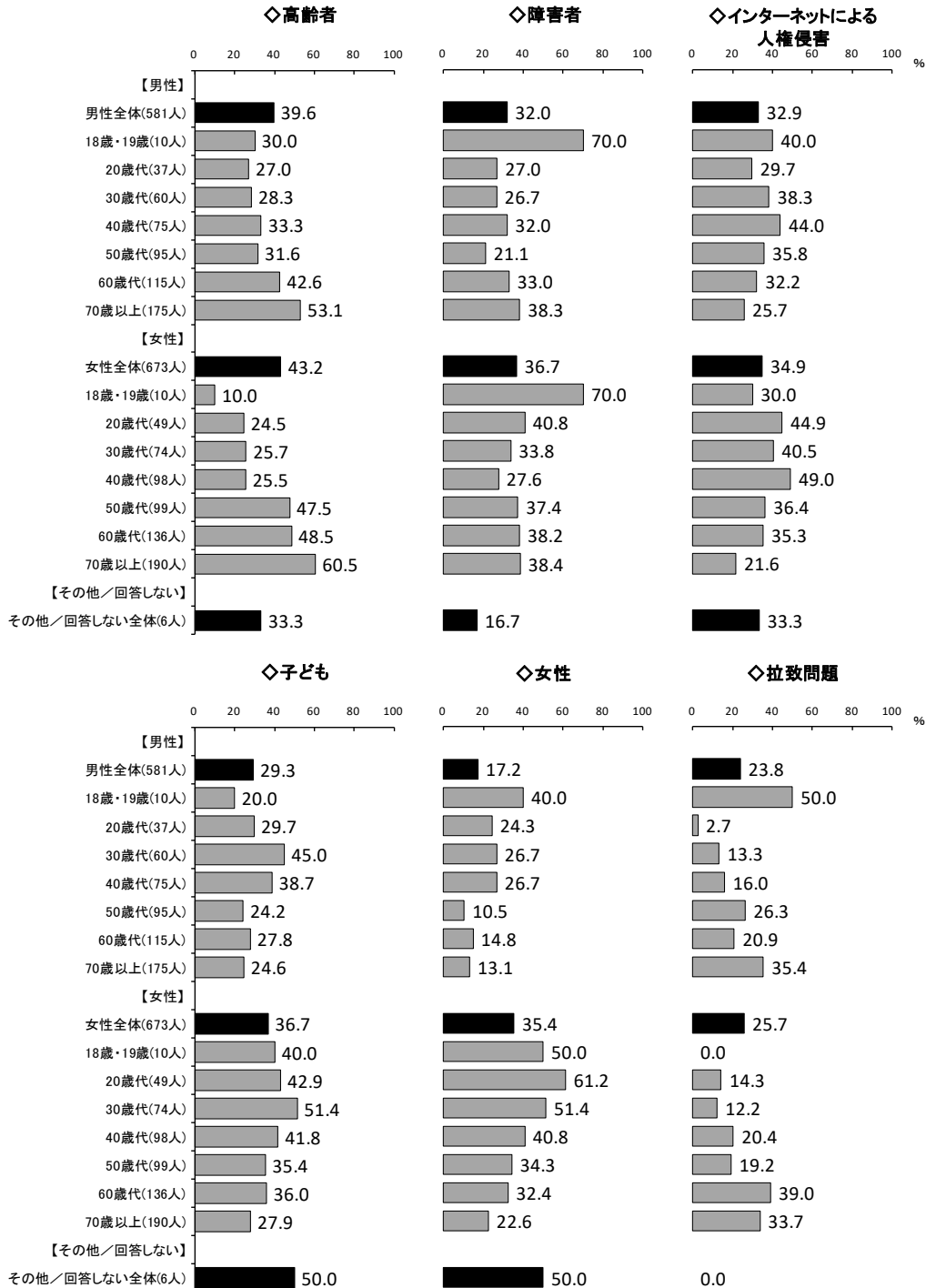
問 26 現在、社会にはいろいろな人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。あてはまるものをすべて選び、番号を○で囲んでください。

人権の意識について(全体・性別)



性別で見ると「女性(の人権問題)」は女性(35.4%)が男性(17.2%)を18.2ポイント、「子ども」は女性(36.7%)が男性(29.3%)を7.4ポイント上回っています。

人権の意識について（上位6項目 性・年代別）



性・年代別でみると「高齢者」は男性・女性とも年齢が高くなるにつれ、関心が高まっています。

「障害者」は男性・女性ともに18歳・19歳で7割となっています。

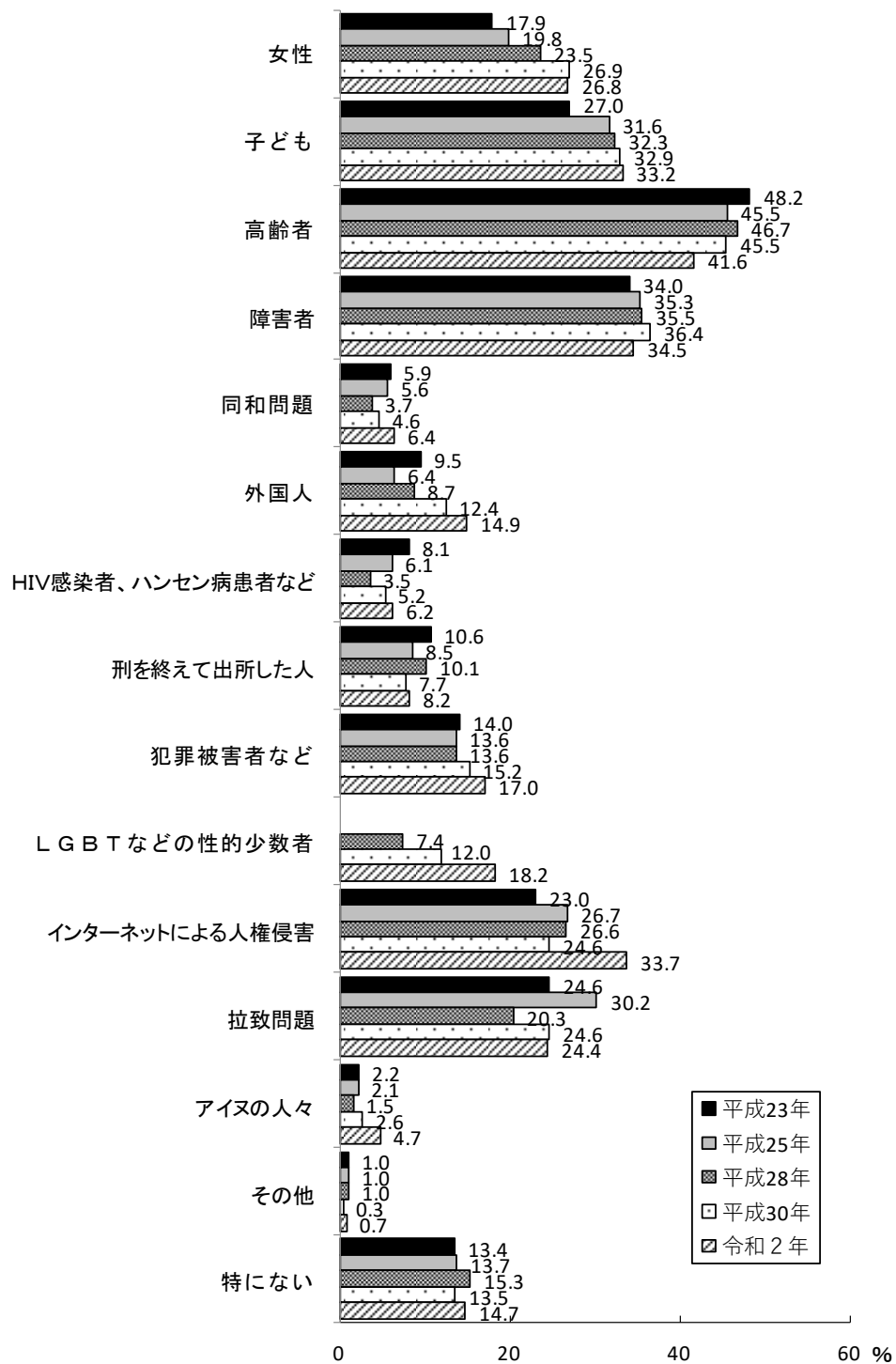
「インターネットによる人権侵害」は男性・女性ともに40歳代(男性44.0%、女性49.0%)で最も高くなっています。

「子ども」は子育て世代である女性の30歳代(51.4%)で最も高くなっています。

「女性(の人権問題)」は女性の20歳代で61.2%と最も高く、30歳代でも5割を超えています。

「拉致問題」は男性の18歳・19歳(50.0%)、女性の60歳代(39.0%)でそれぞれ最も高くなっています。

人権の意識について（経年比較）



※ 「LGBTなどの性的少数者」は、平成28年度からの選択肢です。

※ 「LGBTなどの性的少数者」は、平成28年度までは「性的指向・性同一障害などの性的少数者」でした。

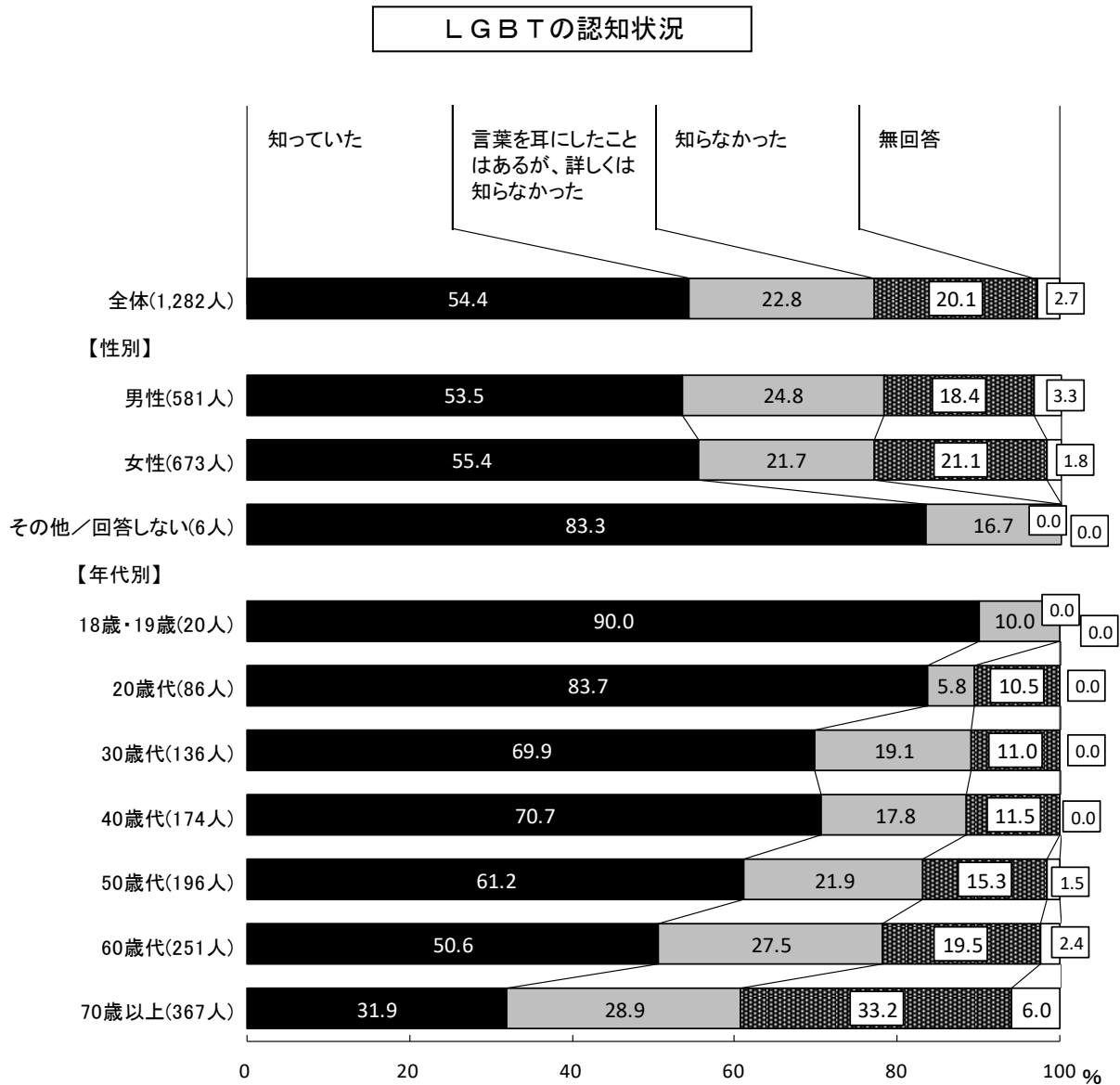
平成30年度調査と比較すると「インターネットによる人権侵害」は9.1ポイント、「LGBTなどの性的少数者」は6.2ポイント増加しています。

平成23年度調査以降「子ども」「外国人」「犯罪被害者など」「インターネットによる人権侵害」「アイヌの人々」、平成28年度調査以降、「LGBTなどの性的少数者」は増加傾向にあります。

7-2 LGBTの認知状況

◆「知っていた」54.4%、「言葉を耳にしたことはあるが、詳しくは知らなかった」22.8%◆

問 27 あなたは、LGBTという言葉を知っていましたか。またその意味を知っていましたか。1つ選び、番号を○で囲んでください。



※「LGBTの認知状況」は新設の設問です。

全体では「知っていた」が54.4%、「言葉を耳にしたことはあるが、詳しくは知らなかった」が22.8%、「知らなかった」が20.1%と、「知っていた」が半数以上となっています。

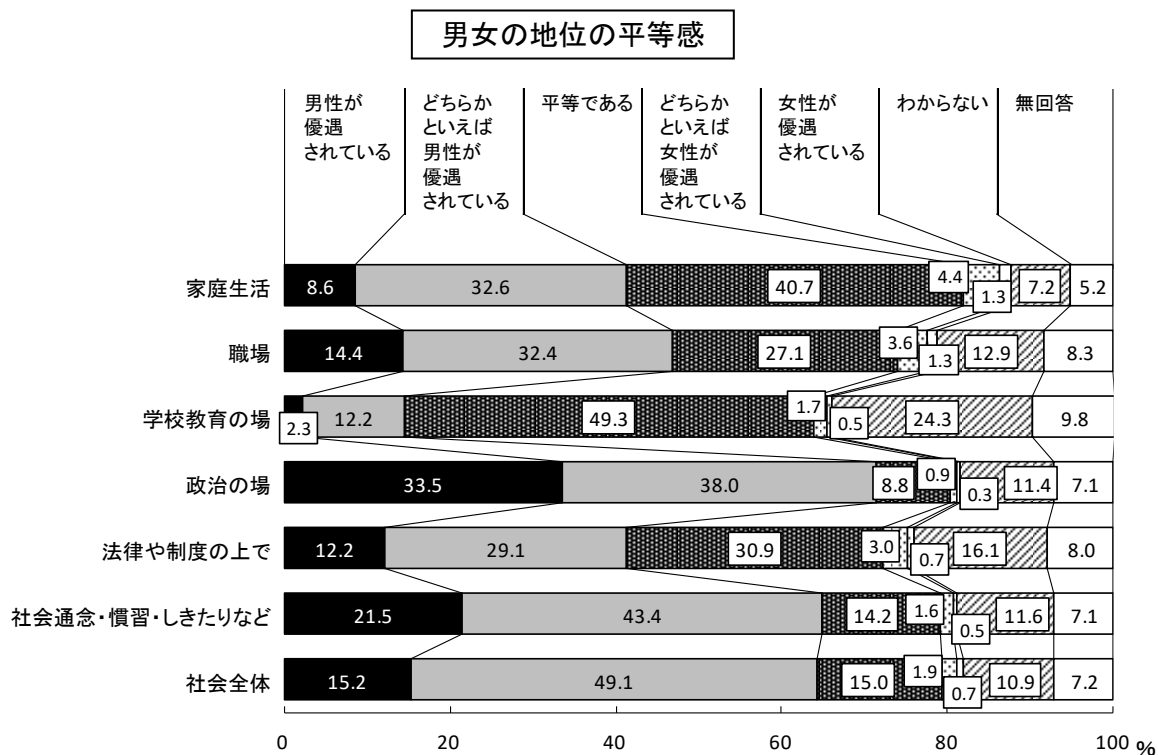
性別で見ると、男性と女性ではほとんど差はありませんが、その他/回答しないでは「知っていた」が83.3%と8割を超え高くなっています。

年代別で見ると「知っている」は年代が高くなるほど割合が減少傾向にあり、18歳・19歳で90.0%、70歳以上で31.9%となっています。「言葉を耳にしたことはあるが、詳しくは知らなかった」は60歳代以降で2割台後半となっています。

7-3 男女の地位の平等感

◆<学校教育の場>の平等感が最も高い◆

問 28 あなたのまわりでは、次の場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれ1つ選び、番号を○で囲んでください。



<全体の概観と性・年代別>

「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇と感じている”は<政治の場>で71.5%と最も高くなっています。次いで<社会通念・慣習・しきたりなど>が64.9%、と高くなっています。

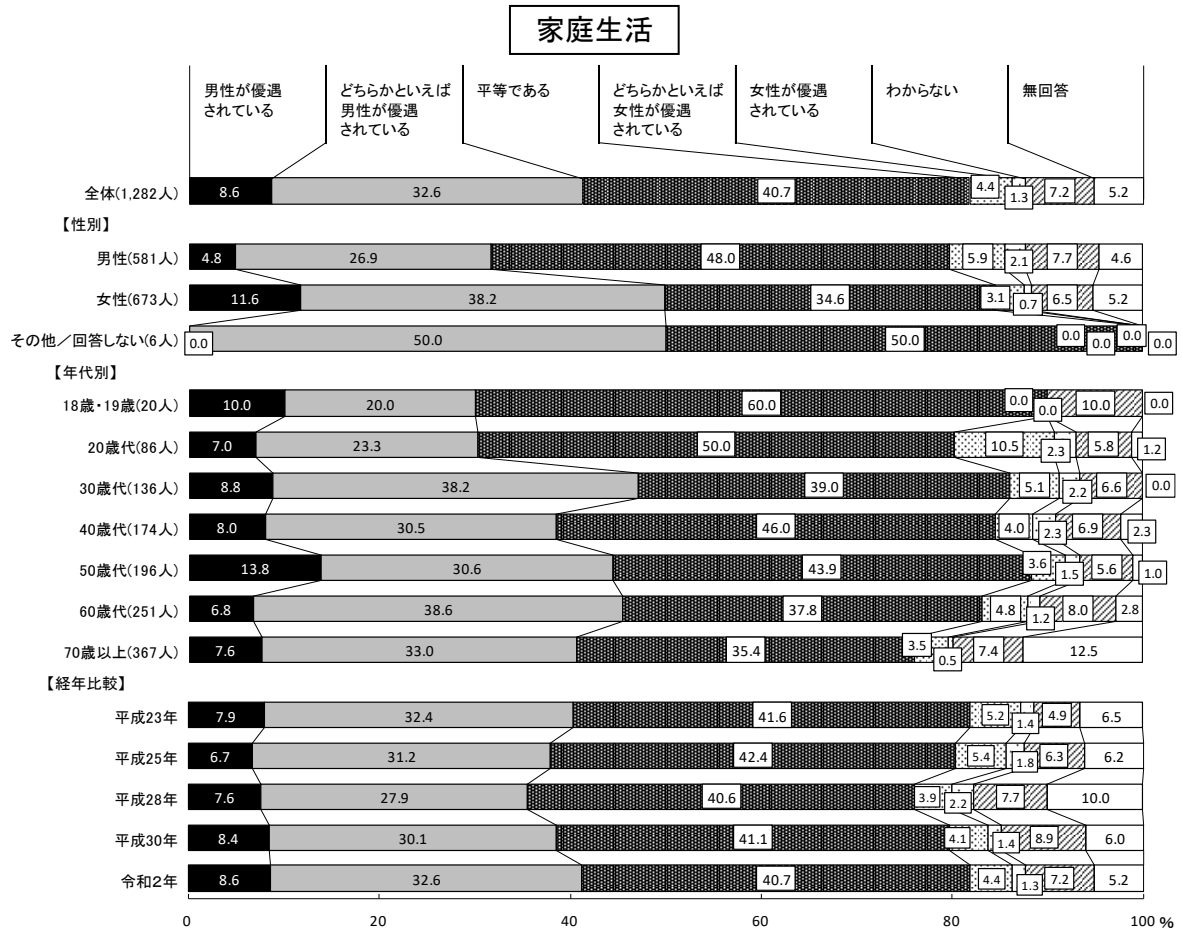
<学校教育の場>は「平等である」が49.3%と“男性優遇と感じている”(14.5%)を大きく上回っています。

性別で見ると“男性優遇と感じている”は、全ての項目で女性が男性を上回り、「平等である」でも女性が男性に比べて低くなっています。「平等である」に注目すると<法律や制度の上で>では17.7ポイントの差があります。

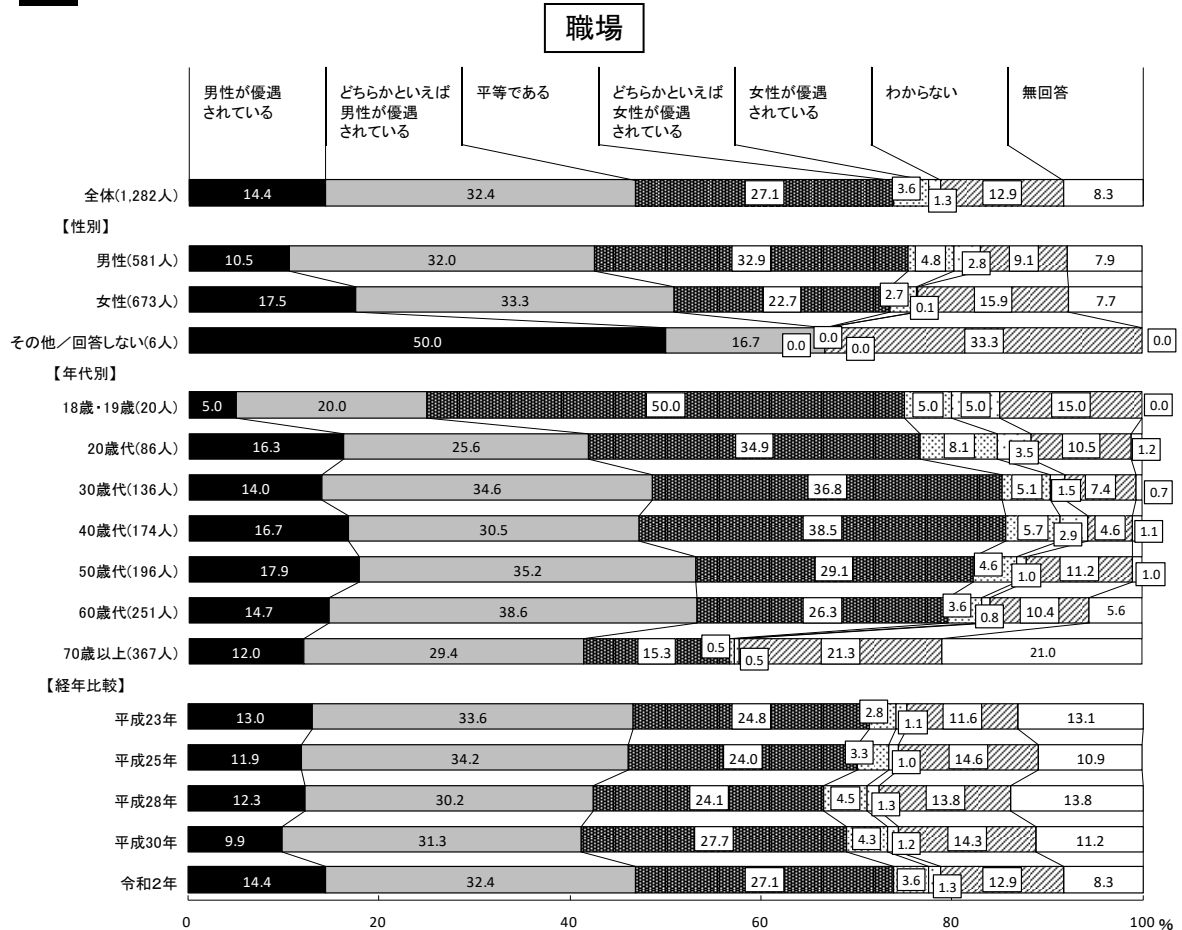
年代別で見ると“男性優遇と感じている”は<家庭生活>で30歳代、<職場><学校教育の場>で60歳代、<政治の場>で50歳代、<法律や制度の上で><社会通念・慣習・しきたりなど><社会全体>で40歳代が最も高い割合を示しています。

平成30年度調査と比較すると「平等である」は、<家庭生活><職場><政治の場>で減少しています。“男性優遇と感じている”は、全ての項目で増加しています。

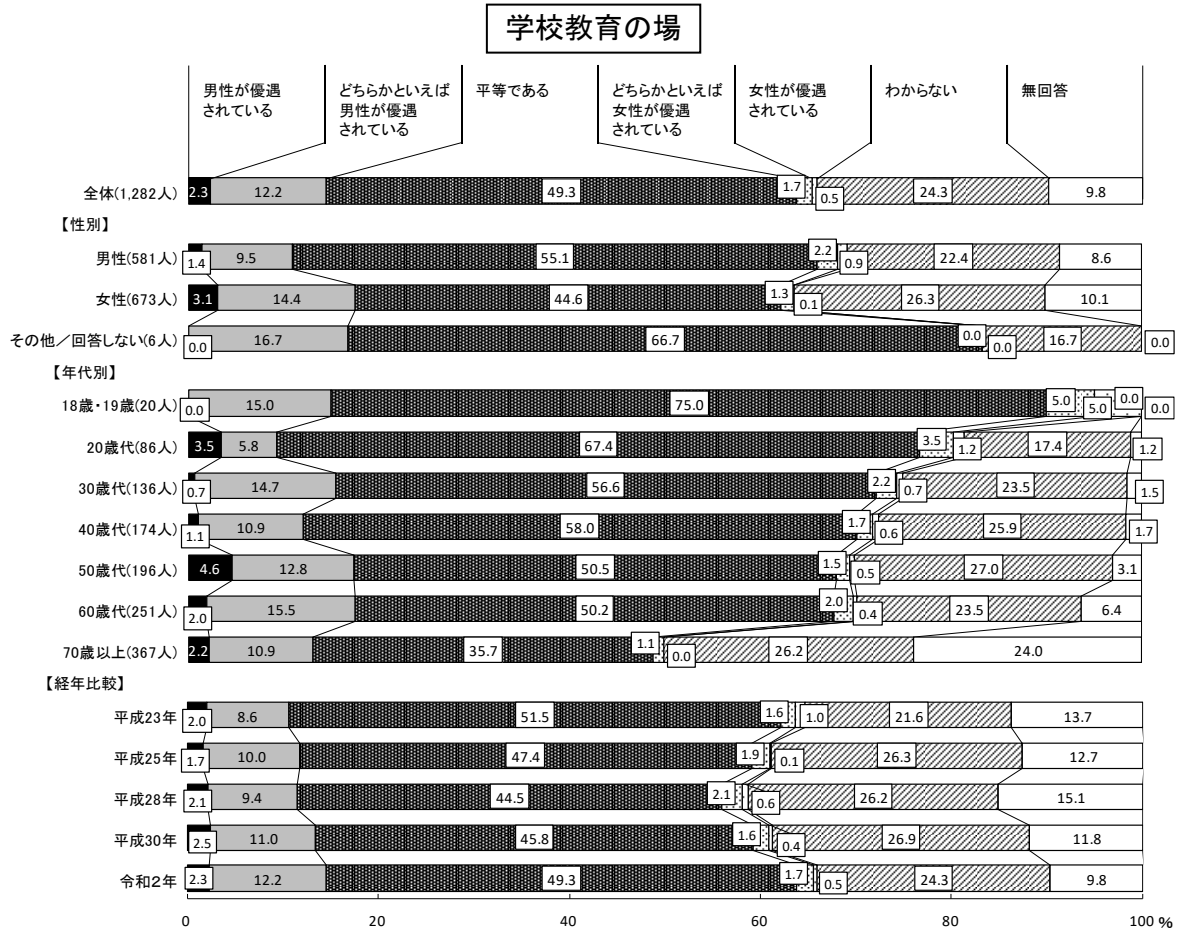
家庭生活 ◆「平等である」40.7%◆



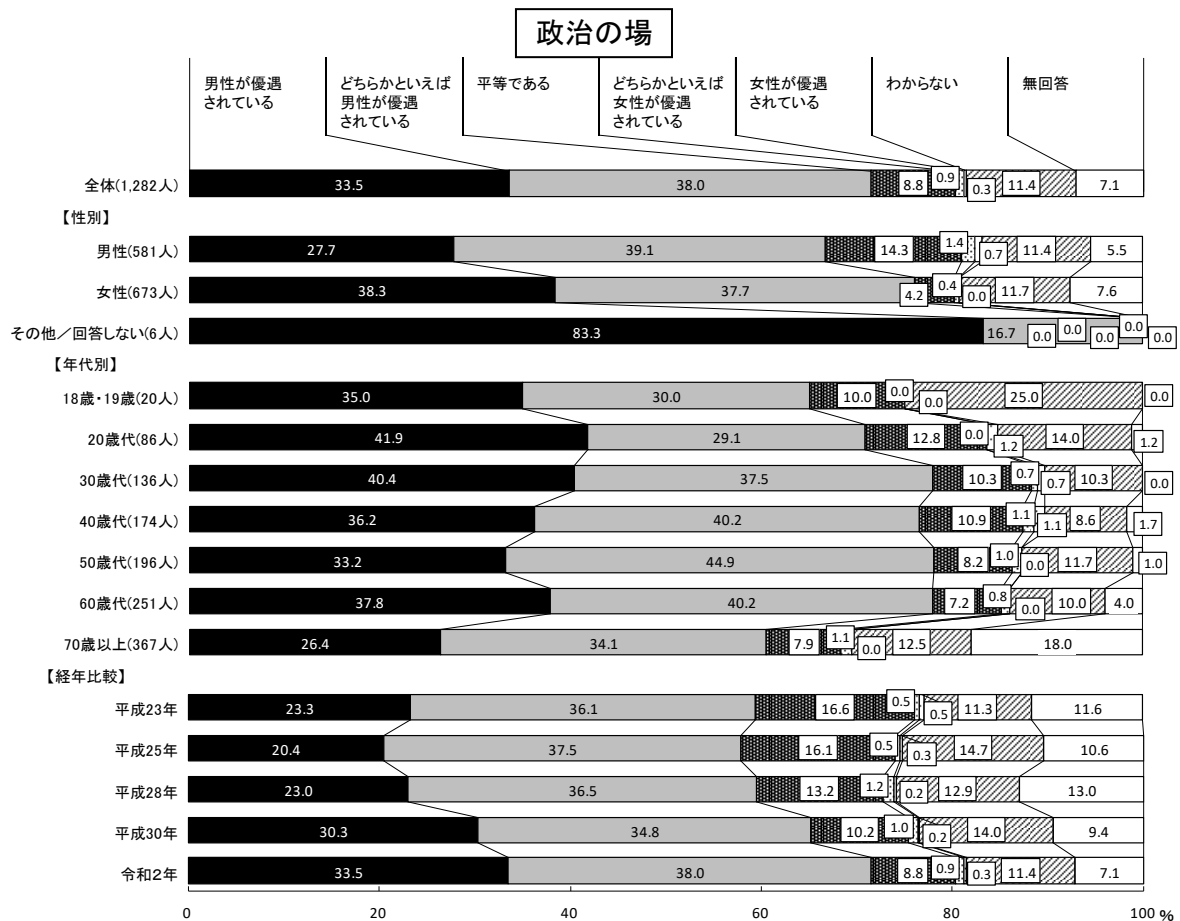
職場 ◆「平等である」27.1%◆



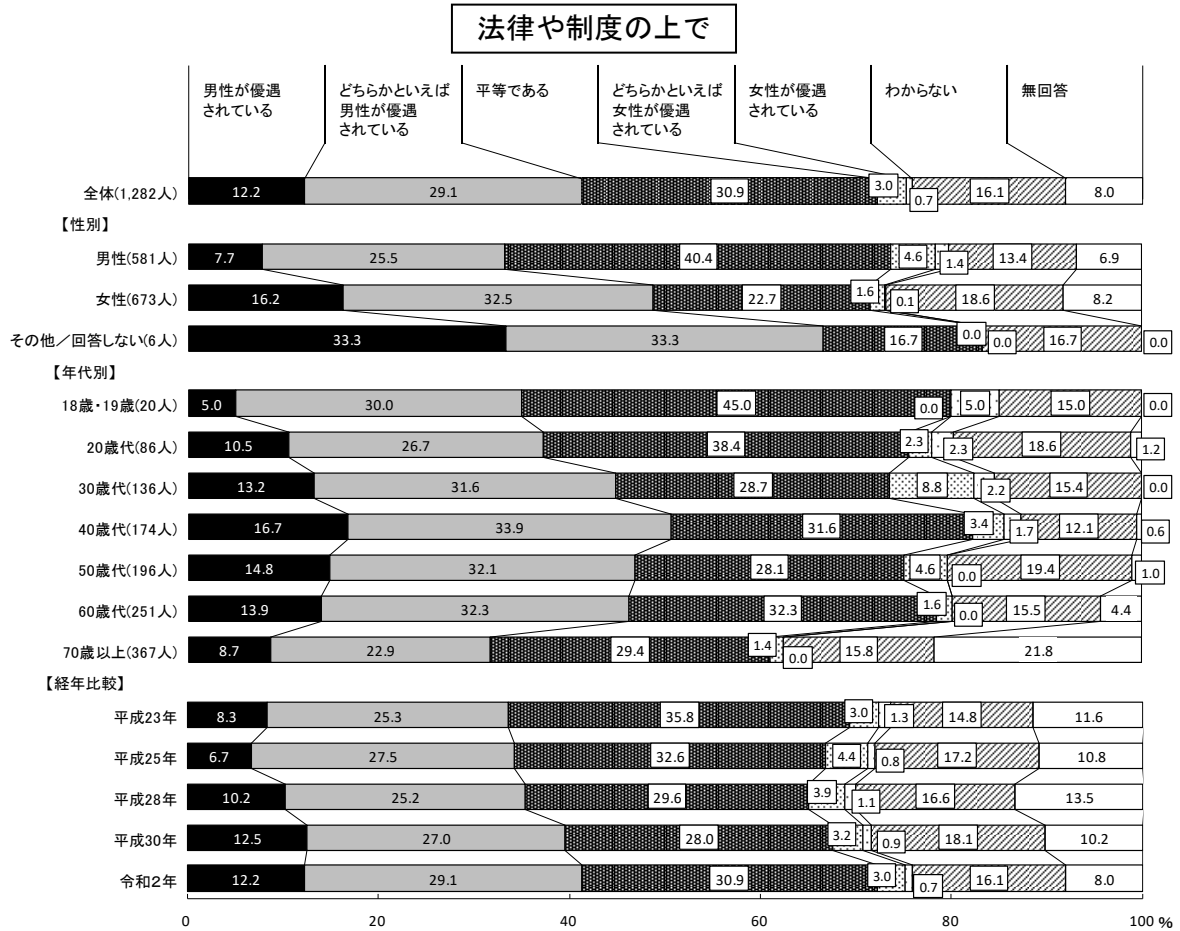
学校教育の場 ◆「平等である」49.3%◆



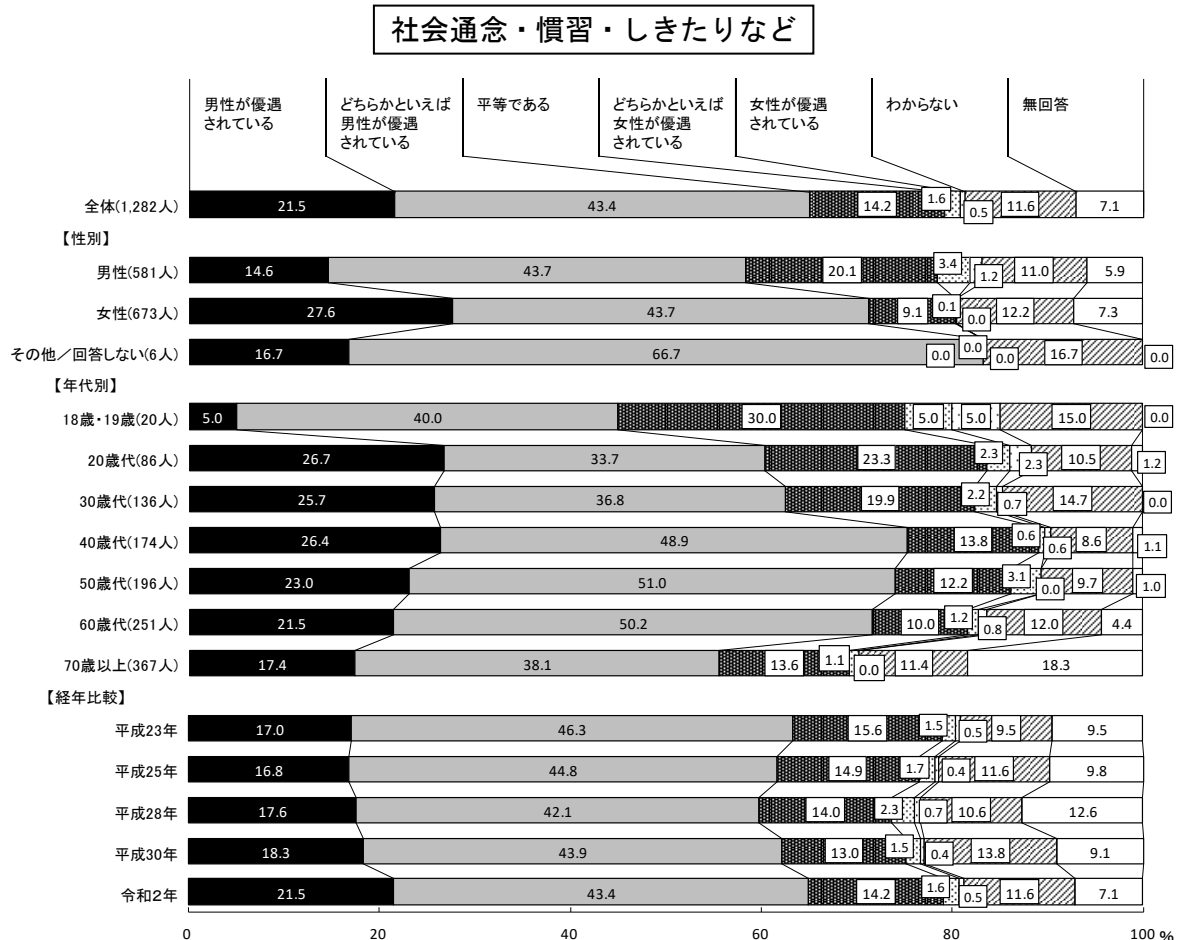
政治の場 ◆「平等である」8.8%◆



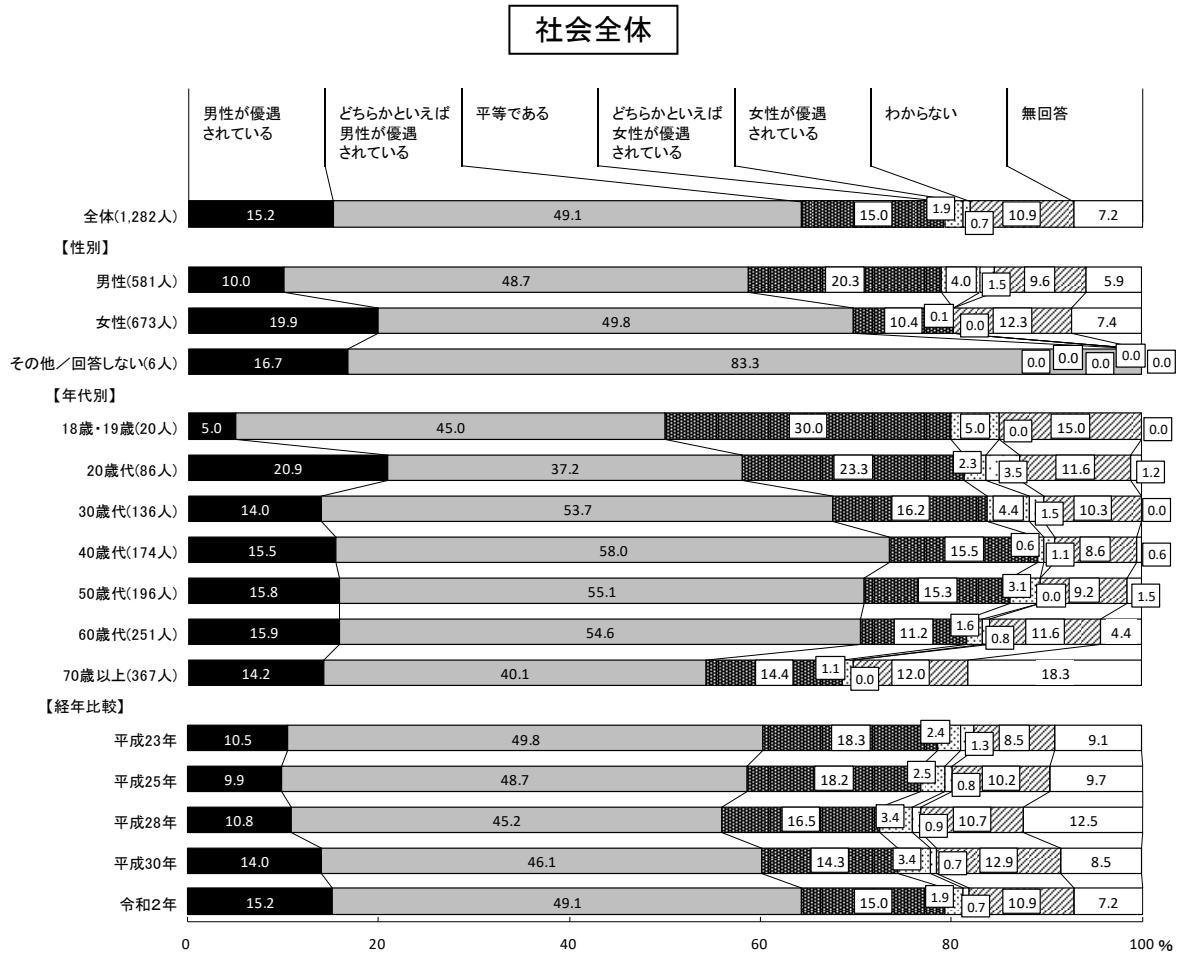
法律や制度の上で ◆「平等である」30.9%◆



社会通念・慣習・しきたりなど ◆「平等である」14.2%◆



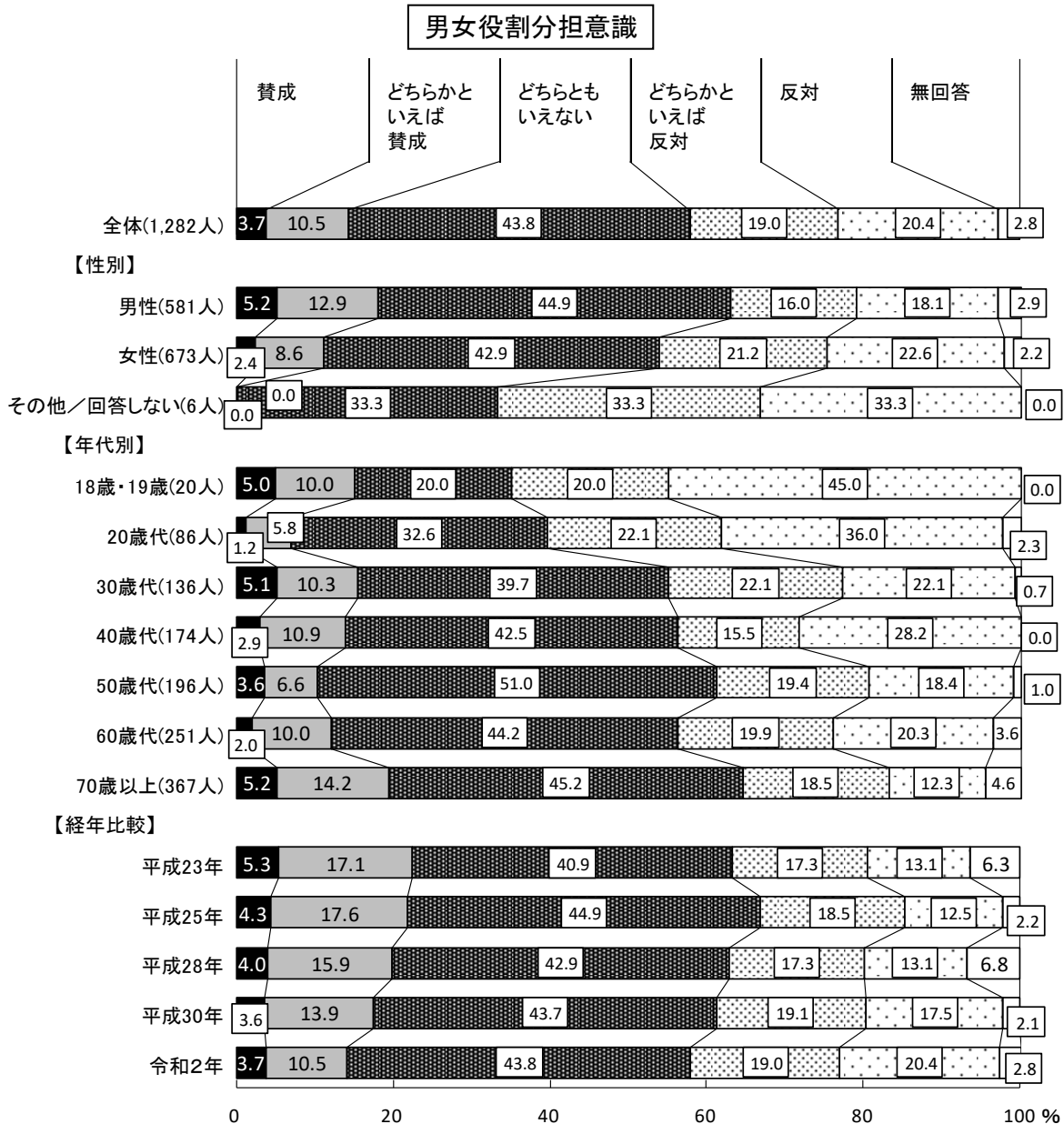
社会全体 ◆「平等である」15.0%◆



7-4 男女役割分担意識

◆ “賛成である” 14.2%、“反対である” 39.4%◆

問 29 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どのように思いますか。
1つ選び、番号を○で囲んでください。



※平成 23 年度調査において「わからない」(3.5%)を選択した方は、「無回答」(2.8%)と合計して掲載しています。

全体では「賛成」が 3.7%、「どちらかといえば賛成」が 10.5%で“賛成である”は 14.2%となっています。一方「反対」が 20.4%、「どちらかといえば反対」が 19.0%で“反対である”は 39.4%となっており、“賛成である”(14.2%)を 25.2 ポイント上回っています。

性別で見ると、男性・女性ともに“反対である”が“賛成である”を上回っていますが、男性ではその差が 16.0 ポイントであるのに対して、女性ではその差が 32.8 ポイントと開きがあります。

年代別で見ると、全ての年代で“反対である”が“賛成である”を上回っていますが、70 歳以上ではその差が 11.4 ポイントと最も小さくなっています。

平成 23 年度調査以降、“賛成である”は減少、“反対である”は増加傾向にあります。